

第32回日本輸血・細胞治療学会 秋季シンポジウム
共催ランチョンセミナー4

世界の血小板輸血

日時
会場

2025年10月25日(土) 12:20~13:20

有明セントラルタワーホール&カンファレンス
4階ホールA (第2会場)

過去2度にわたり、血小板の採取法（アフェレーシス、複数の全血ドナーからなるプール）や保存条件等に関する世界調査が行われた。血小板製剤は通常、室温・酸素供給条件において保存されることから、細菌増殖のリスクがあり、各国ともこの課題の解決に工夫を凝らしている。本講演では、2024年に行った第3回調査で収集した世界各国の血小板製剤に関する最新情報—安全で有効な血小板を確保するため各国が実施している手法を紹介する。

各国ともドナー数が伸びない状況で、安全で有効なPCの確保に知恵を巡らせている。よりドナー数確保が必要となるアフェレーシスへの移行を留め、全血からのプール血小板で有効利用を図り、PAS（血小板保存液）を導入して血漿を無駄なく利用している。また、細菌スクリーニングやPRT（病原体低減技術）といった安全技術の導入による細菌感染の低減・血小板製剤の安全性向上など、数々の知見を取り扱う。

座長

日本赤十字社 血液事業本部 中央血液研究所 所長

谷 慶彦 先生

演者

福島県立医科大学 副学長

大戸 斉 先生